

前回は「デザインの品格」について話しましたが、今回は、どのようにすれば品格あるデザインを生み出せるかを具体的に伝えたいと思います。

完結に言えば「日本人である特権」を活かすことです。我々、日本人の持っている感性には、世界から一目置かれている品格があります。それは、デザイン以外にも、生活習慣、人間性、食文化にいたるまですべてにあり、我々の誰もが潜在的に身に付けているものです。デザインで見ると、機能美（そぎ落とす美学）、清楚な美（寸止めの美学）、洗練された美（粹と雅な感性）、抽象美（簡素化の美学）、緻密な美（匠の技）などがあります。つまり、クライアントからどんな要求（例えば、欧米のクラシック様式、上海デコ様式）があっても、自身の感性のフィルターを通して考えることで、品格あるデザインが実現できるはずです。

そこで重要なことは、模範の写真や実物を見すぎないことです。つまり初回で話をした「見猿、知ら猿、慣れ猿」の実践です。その過程の中で、一度引き出しからすべて出し尽くしてから、引き算でデザインを整理し、やりたいことや目的を明快にしていくステップが必要です。是非、日本人である誇りと自信を持って実践してみてください。

大久保豊